

“今週の国際宇宙ステーション(ISS)”

※特に断りの無い限り日付は日本時間です。

☆最初のISS構成要素打上げから3105日経過しました
 ☆第15次長期滞在クルーのISS滞在は42日経過しました
 ☆ISS動向

第15次長期滞在クルーのフョードル・ユールチキン、オレグ・コトフ、スニータ・ウィリアムズ宇宙飛行士は、5月15日にISS後方にドッキングしたプログレス補給船(25P)からの荷下ろし作業や、6月にISSに到着するアトランティス号(STS-117)の準備作業を行いました。ユールチキン、コトフ両宇宙飛行士は、ISSからアトランティス号の熱防護システム(TPS)の損傷を検査するための写真撮影の訓練を行いました。この撮影は、アトランティス号がドッキング前にISS下方で行うランデブ・ピッチ・マヌーバ(縦方向に360度回転)中に行います。ウィリアムズ宇宙飛行士は船外活動用の工具を組み立て、保護テープを巻きました。この工具は、STS-117ミッション中にP6トラス右舷側太陽電池パドルを折りたたむ際に、船外活動クルーの支援が必要な場合に使われます。



船外活動工具を組み立てるウィリアムズ宇宙飛行士(提供: NASA)



船外活動工具(STS-116ミッション時に作成したもの)(提供: NASA)

また、ユールチキン、コトフ両宇宙飛行士は、5月31日と6月7日に行われる船外活動に向けた準備作業を行いました。両宇宙飛行士は、ロシアのオーラン宇宙服を着用して「ピアース」(ロシアのドッキング室)から船外に出て、「ズヴェズダ」(ロシアのサービスモジュール)への軌道上デブリ防護パネルの取付けと、ズヴェズダ外側に設置された実験装置の交換を行う予定です。

“「きぼう」最新情報”

☆「きぼう」実験ラックの宇宙飛行士による機器確認作業実施

米国時間5月14日に、NASAケネディ宇宙センター(KSC)の宇宙ステーション整備施設(SSPF)において打上げ準備作業中のRYUTAIラックについて、宇宙飛行士による機器確認作業(Crew Equipment Interface Test: CEIT)が行われました。この作業は、軌道上で作業を担当する宇宙飛行士が実際に使用する機器を確認し、イメージをつかむものです。

RYUTAIラックは、SAIBOラックとともに「きぼう」船内保管室に搭載されて打ち上げられる実験ラックのひとつで、このRYUTAIラックには流体物理実験装置(Fluid Physics Experiment Facility: FPEF)や溶液・タンパク質結晶成長実験装置(Solution/Protein Crystal growth Facility: SPCF)、画像取得処理装置(Image Processing Unit: IPU)が搭載されています。船内保管室は「きぼう」日本実験棟の第1便(1J/Aミッション)として2008年2月以降に打ち上げられる予定です。なお、同5月4日にSAIBOラックの確認作業を実施しました。

今回の試験には、第17次長期滞在クルーのサンドラ・マグナス宇宙飛行士が参加し、機器担当エンジニアからの説明を受けながら機器の操作方法などについて確認しました。

★「きぼう」日本実験棟に関する各種情報は、右記ホームページをご覧ください。 <http://kibo.jaxa.jp/>



マグナス宇宙飛行士(左から2人目)



マグナス宇宙飛行士(右)



マグナス宇宙飛行士(右)

RYUTAIラックの機器確認作業の様子(提供: NASA)

問い合わせ先: 宇宙航空研究開発機構 宇宙ステーション・きぼう広報・情報センター

ホームページ <http://iss.jaxa.jp/> Eメール kibo-pao@jaxa.jpウィークリーニュースメーリングサービス登録 <http://iss.jaxa.jp/weekly/index.html>

※「ISS・きぼうウィークリーニュース」に掲載された記事を転載する場合、本ウィークリーニュースから転載した旨を記述ください。